

2019年度
全国グループホーム等研修会in千葉

グループホームの果たすべき役割、進むべき方向性

大会
テーマ

時代をつなぐ
次代につなぐ



2019年8月29日(木)~30日(金)

アパホテル&リゾート〈東京ベイ幕張〉

開催要項

1 趣旨

全国の知的障害福祉関係職員ならびにグループホーム関係者等が一堂に会し、当面する諸問題について研究討議し、これを実践として活かすことにより、知的障害者の福祉の向上に寄与することを目的とします。

2 大会テーマ

『グループホームの果たすべき役割、進むべき方向性』 ～時代をつなぐ 次代につなぐ～

1989年に現在のグループホームが「知的障害者（当時は精神薄弱者）地域生活支援事業」として制度化され、30年が経過しました。当初は「身辺自立や就労、日常生活を維持するに足る収入の有る事等」が入居の対象でしたが、現在では「行動障害のある方」や、一部には「医療的ケアや看取りを見据えた支援」を実践するグループホームも生まれてきました。また、定員も4～5人を標準としていたものが、1住居当たりでは2～10人とするなどの緩和やサテライト型など、様々な形態・構造のホームも誕生しました。

一方では、折からの人材確保の困難性もあり、利用者の個別ニーズに充分に答えられていない状況や、顕在化してきた障害者虐待の問題など、従来、我々が守り、問い続けてきた事柄が揺らいでいることも事実です。

2020年度中には、グループホーム入居者数が障害者支援施設の入所利用者数を上回るという推計も出され、今後、グループホームにはさらなる課題と多くの期待が寄せられることが明白です。

これまでつなげてきた多くの実践から、次代につながる新たな取り組みを見出し、障害のある方々にとって真により良い暮らし、普通の暮らしを提供できるように、今こそグループホームの果たすべき役割、進むべき方向性について、夢を語り合ひましょう。

3 主催

(公財) 日本知的障害者福祉協会・関東地区知的障害者福祉協会・千葉県知的障害者福祉協会

4 後援 (予定)

千葉県 千葉市 千葉県社会福祉協議会 千葉市社会福祉協議会 千葉県自閉症協会
千葉県手をつなぐ育成会 千葉市手をつなぐ育成会 千葉県社会就労センター協議会
千葉県知的障害者支援施設家族会連合会

5 期日

2019年8月29日(木) ～ 30日(金)

6 会場

- 【全体会】 2019年8月29日(木)・【分科会】 2019年8月30日(金)
 アパホテル&リゾート〈東京ベイ幕張〉幕張ホール
 〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野2-3 TEL 043-296-1111
- 【情報交換会】 2019年8月29日(木)
 ホテルグリーンタワー幕張
 〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野2-10-3 TEL 043-296-1122

7 参加者

定員1,000名(申込先着順)

- (1) 知的障害福祉関係職員ならびにグループホーム関係者
- (2) 関係機関、教育等の知的障害福祉に関心のある方

8 大会参加費

- (1) 研修会参加費：12,000円／第6分科会のみへの参加3,000円
 (同行・付添いの方もお申し込みをお願いします)
- (2) 情報交換会参加費：8,000円(定員：600名見込)

9 参加申し込み方法

参加申込書に必要事項を記入の上、FAXにて名鉄観光サービス(株)千葉支店宛にお申し込みください。申し込み受付後、名鉄観光サービス(株)より請求書が送付されますので、指定の期日までに費用をお振込みください。

10 申し込み期限

2019年7月26日(金) 別紙申込書をFAXしてください。

11 参加申し込み書の送付・問い合わせ先

名鉄観光サービス(株)千葉支店
 TEL 043-225-3731 / Fax 043-225-3734

12 日程及び内容

【8月29日(木)】

12:00	13:00	13:30	14:30	15:15	15:30	17:00	18:00	20:00
受付	開会式	行政説明	基調報告	休憩	記念講演	移動	情報交換会	

【8月30日(金)】

8:30	9:00	12:00
受付	分科会	閉会 解散

※閉会式はありません。各分科会終了後に解散となります。

全体会

I 開会式 / 13:00～13:30

- ・主催者挨拶（日本知的障害者福祉協会会長、千葉県知的障害者福祉協会会長）
- ・来賓祝辞（千葉県知事、千葉市長）
- ・来賓紹介
- ・次期開催地区挨拶

II 行政報告 / 13:30～14:30

演題 「グループホーム施策の変遷と今後の見通し」（仮題）

講師 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活支援推進室
室長補佐 内野 英夫 氏【予定】

III 基調報告 / 14:30～15:15

演題 「全国グループホーム実態調査から。ズバリ！現状と課題を解説」（仮題）

講師 日本知的障害者福祉協会地域支援部会 副部会長 渡部 等 氏
～休憩 15分～

IV 記念講演 / 15:30～17:00

演題 「なぜ人と人は支え合うのか」（仮題）

講師 渡辺 一史 氏 大泉洋主演映画『こんな夜更けにバナナかよ』原作者
ノンフィクションライター



《渡辺一史氏 プロフィール》

1968年名古屋市生まれ。北海道大学文学部を中退後、北海道を拠点に活動するフリーライターとなる。2003年に刊行した『こんな夜更けにバナナかよ』（文春文庫）で大宅壮一ノンフィクション賞、講談社ノンフィクション賞を受賞したほか、2018年12月には主演・大泉洋、高畑充希、三浦春馬など豪華キャストによって映画化され大きな話題となる。また、2011年刊の『北の無人駅から』（北海道新聞社）でサントリー学芸賞、地方出版文化功労賞などを受賞。他の著書に『なぜ人と人は支え合うのか』（ちくまプリマー新書）がある。札幌市在住。

情報交換会 18:00～20:00

会場 ホテルグリーンタワー幕張 アトラクション「銚子はね太鼓」



《銚子はね太鼓》

はね太鼓とは、江戸時代から銚子だけに伝わる日本一過激な格闘技のような太鼓で、銚子市無形文化財に指定される黒潮踊る海の男の力と技の太鼓です。豊かな海作り全国大会では天皇后両陛下の歓迎太鼓を勤め、筑波の科学万博、大阪の花と緑の万博、愛知県の愛地球博、スペインのセビリア万国博、国民文化祭やディズニールランド、テレビ・ドラマ・CMにも数多く出演し、「SMAPへの太鼓指導」や「3年B組金八先生」にも出演、海外公演（アメリカ、スペイン、シンガポール、モロッコ等々）など多方面に活躍の場を広げています。

- ・2015年全国大会・地域伝統芸能大賞受賞
- ・次世代に残したいと思う『ちば文化資産』（東京2020公認文化オリンピック最多得票）

※プログラムや登壇者は変更となる場合があります。

第1分科会

見つけよう! グループホームの未来。 語ろう! 夢を

新たな時代が幕を開けました。グループホームが制度化されて30年が経過し、この間、様々な規制緩和や新たなサービス形態の創設、サービス費(報酬)にも各種加算が設定されるなど、着実に福祉サービスにおけるグループホームの重要性が増しています。

今ここに、各地で展開されている先駆的な事例を知り、グループホームの未来をともに語り合いませんか。

●コーディネーター

山崎 千恵美 氏(日本知的障害者福祉協会 地域支援部会 部会長)
【北海道／(福)NIKORI 統括施設長】

●シンポジスト

光増 昌久 氏
【北海道／障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会 代表】

石本 伸也 氏
【香川県／(福)もえぎの会 もえぎの里 管理者】

早坂 裕実子 氏
【千葉県／(福)まつど育成会 統括施設長】

第2分科会

グループホームに暮らす医療的ケアの必要な方・ 高齢期の利用者の生活を考える

現在グループホームに暮らす利用者の42.8%が50歳以上であり、とりわけ65歳以上は12.5%と割合が増加しており、高齢化が猛烈な勢いで進んでいます。高齢化により医療的ケアの必要な方、高齢になっても生き生きと暮らしたい方々を今後どのように支援してゆけば良いのか。また、高齢でなくても、医療的ケアが必要な利用者をどのように支えてゆけば良いのか。安心して地域で暮らし続けられる体制の構築が必要となっています。

このような中、昨年「日中サービス支援型グループホーム」「共生型サービス」など新たなサービスが創設されました。これらのサービスが高齢期の利用者や医療的ケアが必要な利用者の支援に資するものとなるのか、先駆的にいち早くこれらの支援を開始した事業所の実践を知り、今後の支援・事業展開のヒントとしたいと思います。

●コーディネーター

佐久間 智 氏
【千葉県／(福)野栄福祉会 統括施設長】

●シンポジスト

西川 壘 氏
【千葉県／(福)りべるたす りべらる サービス管理責任者】

長谷川 京子 氏
【富山県／(福)手をつなぐとなみ野 フレンドハウス福光 チーフマネージャー】

鈴木 和也 氏
【栃木県／(福)同愛会 グループホームかがやき 地域支援主任】

第3分科会

グループホームで暮らす方の意思決定支援を考える

障害者総合支援法は、障害者が「どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保」される旨を規定し、指定事業者等に対し、「意思決定支援」を重要な取組として位置付けています。事業者や成年後見の担い手を含めた関係者間で共有することを通じて、障害者の意思を尊重した質の高いサービスの提供に資することを目的とし、ガイドラインも作成されました。

自ら意思を決定することに困難を抱える障害のある方が、日常生活や社会生活に関して、自らの意思が反映された生活を送ることができるように、本人自らの意思決定を重視しているグループホームを含めた支援現場の実践をお伝えします。

●発表者・コーディネーター

本間 奈美 氏

【新潟県／(社) SADO Act 相談支援センターそらうみ 管理者】

●助言者

片桐 公彦 氏

【厚生労働省 障害保健福祉部 障害福祉課 地域生活支援推進室 障害福祉専門官】

●シンポジスト

福島 龍三郎 氏(全国地域生活支援ネットワーク副代表理事)

【佐賀県／(福)はる 理事長】

白鳥 基裕 氏

【神奈川県／(福)訪問の家 地域活動ホーム サポートセンター連 センター長】

第4分科会

鍵はチーム支援。 改正障害者総合支援法で連携はどう進化するか

地域で暮らす障害者が、住み慣れた場所で働き、生活し続けることは、私たち支援者の願いです。障害のある人たちの幸せの実現のために私たちが役割を果たすには、一人ひとりの支援力やチーム力の向上に加え、その支援力を支える手段や制度を理解し活用することが不可欠です。

改正障害者総合支援法により新たなサービス「自立生活援助」や「就労定着支援」が創設されました。これらの新しいサービスをよりうまく運用していくためのポイントについて、多機関・多職種連携の可能性・ヒントを探りたいと思います。

●コーディネーター

白井 正和 氏(千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会 会長)

【千葉県／(福)ロザリオの聖母会 業務執行理事】

●助言者・基調報告

吉野 智 氏

【厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害福祉専門官】

●シンポジスト

赤嶺 光徳 氏

【大分県／(福)博愛会 地域総合支援センター 施設長】

宗石 敏典 氏

【福井県／(福)かすみが丘学園 グループホーム・コミュニティかすみ 管理者】

第5分科会**いのちをつなぐ／
災害を生き抜く 様々なリスクを乗り越える**

平成を振り返るとき、この30年間は災害との戦いでした。その時何が。

私たちは利用者、そして職員を守るために、何に備えなければならないのでしょうか。グループホームは規模の大小やバックボーンとなる法人が様々であったり、住まいの場として命を預かるにもかかわらず、ともすれば脆弱な運営体制のホームも少なくありません。そこで重要になるのは、地域との関係性であったり、事業者間のネットワークであったりとハード以外の備えだと思えます。これまでの災害時の状況を知り、できることにすぐ取り組みませんか。

●コーディネーター

最上 太一郎 氏

【熊本県／(福)菊愛会 理事長】

●シンポジスト

岩田 雅利 氏 (東社協知的発達障害部会・東京都災害福祉広域支援ネットワーク推進委員)

【東京都／(福)正夢の会 コラボいなぎ 施設長】

飯田 克也 氏

【宮城県／(福)つどいの家 GHひこうき雲 管理者】

松本 慎太郎 氏

【熊本県／(福)三気の会 三気の里 サービス管理責任者】

第6分科会**語ろう夢を／本人・世話人部会**

人生の楽しみ、生き甲斐、誇り、支え・支えられる関係の中で育つ様々な人間模様。

「こんなグループホームがいいな!」「世話人の仕事ってとっても楽しい!」

ご縁があって出会った者同士、普段なかなか言えない話も、同じくグループホームで生活をしている仲間となら……。

今日はおおいに語り合いましょう。明日の元気!夢に向かって!!

●コーディネーター

小沢 太 氏

【千葉県／(福)かずさ萬燈会 木更津中郷丸 施設長】

●グループディスカッション

ファシリテーター／(協力)千葉県障害者グループホーム等支援ワーカー

- ・グループワーク(サイコロトーク大会)

*グループホーム生活あるある

同じような場面を経験したり、「そんなこともあるんだ!」とびっくりエピソードなどを、皆さんで大いに語り合いましょう。

- ・グループホームの“木”を作ろう

*皆さんの想いや気持ちが詰まった“気になる木”を作ってみましょう。

- ・ビデオメッセージ(サプライズ)

*あなたのホームのあの世話人さんからのメッセージがあるかも……。